

ヤマトミシン製造 株式会社 代表取締役社長 近藤 章吾 さん



オンリーワンの高度な技術で 世界初の新製品を次々に創造

当社は、1927年に創業した工業ミシンを専門に手がけるメーカーです。どこにも負けないオンリーワンの技術力を最大限に活用し、これまでの歩みで世界初となる数々の新製品を世に送り出し、世界中の大手ユーザーからの信頼を不動のものとしています。皆さんがよく知っている世界的なブランドの衣料品の中にも、実は当社の工業ミシンやアパレル機器で生産されているものが実に多いんですよ。ひょっとしたら、いまあなたが着ているそのTシャツだって、当社のミシンによって縫製された商品かも知れないのです。このような実績からも分かるように、当社は「知られざる世界企業」といえるでしょう。アパレル・ソーイング業界では、「YAMATO」のブランドは誰もが知っている、最高級ランクに位置する著名なブランドなのです。

メイドインジャパンの誇りを胸に “さらなる技術の高み”を目指す

1958年、日本製の工業ミシンとしては初めて、当時世界最高峰であったドイツ市場への進出に成功しました。この成功を足掛かりに、当社はその後の海外展開を急速に加速させていくこととなります。現在の販売子会社は、アメリカ、ドイツ、シンガポール、香港、中国、他にインド、バングラデシュ、ベトナム、カンボジア、インドネシア、タイ、エルサルバドルなど海外に18カ所、国内に7カ所の販売・サービス拠点を設置しています。生産関係会社は、日本に3社、中国に1社。グループ全体の総社員数は900名ほどであり、最近では外国人社員の割合が増え続けています。このようにグローバル化への対応も進める中で、現在、低価格帯の量産型機種は中国生産となっていますが、当社はあくまでも創業以来一貫して日本生産にこだわり、日本の工場・生産設備を大切に温存してきました。当社の製品には、「Made in Japan, it means more than words」の精神が色濃く息づいています。まだまだミシンといえば家庭用ミシンのイメージがあり、工業ミシンは、一般の方には馴染みが薄いと思います。ですが工業ミシンは、今や電子・エア制御を駆使したメカトロニクスの結晶。そういう意味においては、当社の製品はアパレル・ソーイング産業向けの「ハイテク縫製ロボット」ともいえるのです。

決して現状に満足することなく より画期的な製品の開発に注力

いくら素晴らしい技術を持っていても、現状に満足してしまえば会社としての進歩はそこで止まってしまう。当社はいつの時代もマーケティング・マネージメント・システムを駆使し、世界中あらゆる縫製工場の現場を灯台として多種多様なニーズをキャッチ。原価を下げて品質を均一化できる省力装置付きのミシンなど、お客様の求める合理化を実現する機器の開発を成し遂げてきました。「世界初はいつもヤマトから」をスローガンに、今後もコストパフォーマンスに優れた革新的な製品づくりに心血を注ぎ、業界のイノベーションを牽引していきたいと気を引き締めています。

いつの時代もメーカーとして キラリと輝き続けていたい——

当社ではミシン本体だけでなく、たとえば装置に使用される「センサー」も自社で開発・生産しています。いわば「プロの技術集団」ともいえ、技術者の飽くなき開発精神には、代表の私も本当に頭が下がる思いです。当社のミシンは日本製なので、やはり価格は少々高くなります。しかし、高品質・高付加価値のヤマトミシンを使って生産される衣料品のコストは、標準的な海外製ミシンを使用して生産するより格段に安く済むのです。ロスがなくなるので機器導入に使った代金もすぐに回収でき、「タダより安く」なります。キャッチアップの時代に価格競争に明け暮れていても、そこは後進国メーカーの土俵ですから将来はありません。「タダより安い。買わないと損」ということなら、これから何十年先も、メーカーとして輝きを放ち続けられるのではないかと感じています。

生産方式の改革に着手・成功 現在は実質上の無借金経営に

単なる工業ミシン製造の枠に留まらず、お客様の困り事を解決するSOLUTION PROVIDERを目指しアグレッシブな開発型・提案型企業として世界中多くのお客様から支持されるようになった当社。しかし、開発をすればするほど少量多品種となり、在庫が増えていくというも事実。それを踏まえて導入したのが、「少量多品種の製品を実需に連動して素早く生産することができる」トヨタ生産方式でした。一念発起して生産改革、業務改革に一丸体制で取

り組んだ結果、それまで80日かかっていた生産リードタイムは3日半と大幅に短縮。1つの工場棟の約半分が空いてしまうほど、在庫を劇的に減らすことに成功したのです。この改革の成功は、開発・マーケティング活動を財務面からも支えることとなりました。1995年に導入してから、はや20年余り。その間には2001年のニューヨーク・テロ事件や2008年のリーマン・ショック、2010年の欧州債務危機など、世界をゆるがす数々の経済危機が起りましたが、当社は一度も経営赤字を出したことがありません。結果、ネット借入金も順調に改善され続け、ついに実質上の無借金経営となりました。

若手がイキイキと活躍する 会社であり続けるために——

次世代に向けたエースを育成するべく、当社では若手が積極的に成長のチャンスを得られることをモットーにしています。開発の現場などで発信される切り口鋭いアイデアには、私も驚かされることが多く、見ていて本当に頼もしい限りキラキラと目を輝かせながら一心に開発に取り組んでいるひたむきな姿には、胸を打たれるものがあります。繰り返される日々の中で忘れかけている「大切な何か」を思い出させてくれるんですね。ベテランの想いやノウハウをしっかりと受け継ぎつつ、それを自分の中で昇華させてより価値の高い技術を創造する——。そんな若い社員がどんどん増えてくれることを、代表として心から願っています。私自身も入社ほどなくして海外に駐在し、貴重な経験をたくさんさせていただきました。様々な人との出会いや触れ合いが、私を仕事のうえでも、また一人の人間としても大きく成長させてくれました。それらの全てがかげがえのない財産です。これまでの人生においてもその経験が大いに活かされています。

大切なのはチャレンジ精神 運命の出会いに心から期待!

これから当社の一員となつてくださる方に私が求めるのは、ずばり「positive thinking」と「チャレンジ精神」ですね。どんな場面であれ、「とにかくやってみよう」と行動を起こすことが最も大切であり、行動に起こさなければ何も始まりません。自分を過小評価せず、どんな時でも大いに自信を持って行動に移してください。若手社員に失敗は付き物であり、たとえ失敗してもそこから何か大きなものを学んでくれたなら、それはもう失敗ではなくなるわけですからね。少なくとも当社には、若手の失敗を受けとめてフォローする土壌がしっかりと根付いています。当社と

いう世界の最先端で活躍できるフィールドを舞台に、良い意味で大暴れしてくれるような若手に来てほしい——。それが代表としての、揺るぎない想いです。そのための機会には海外を含む顧客とのやりとりなど沢山あります。当社に新たな風を吹かせてくれる方との運命の出会いを、首を長くして待ちます!今まで以上にすごい性能を持った工業ミシンで、世界中をアツと驚かせましょう!



中国浙江省寧波市にある、現地法人「YAMATO CHINA Co., Ltd」の工場社屋(2000年11月設立)



同社製のメカトロ機種NB-7000Vシリーズ。様々な種類のボタンの縫い付けとカボタン付根巻き作業を機械化。言語に頼らないグラフィックユーザーインターフェースを採用し、アパレル生産のグローバル化に対応。

PROFILE プロフィール

1954年生まれ。大学卒業後、1977年ヤマトミシン製造株式会社に入社。入社直後に当時の西ドイツ、ハンブルクに3年駐在。以降自ら海外縫製工場へ延べ2,000回以上を足で回り拡販に注力。1995年に代表取締役役に就任し現在に至る。

会社情報

ヤマトミシン製造 株式会社
[工業用ミシン及び縫製関連機器の製造・販売]
〒530-0047
大阪市北区西天満4-4-12
TEL:06-6364-1321
設立:1946年(創業:1927年)
従業員数:約900名(グループ全体)
売上高:115億9,900万円(平成29年3月期 連結)
HP:http://www.yamato-sewing.co.jp

知られざるグローバル企業

としてアパレル業界に貢献